

つ生徒が多い。そこで、本研究ではコミュニケーション能力の育成を目指した「書くこと」の指導のあり方について考えたい。

II 研究の構想

この研究は、

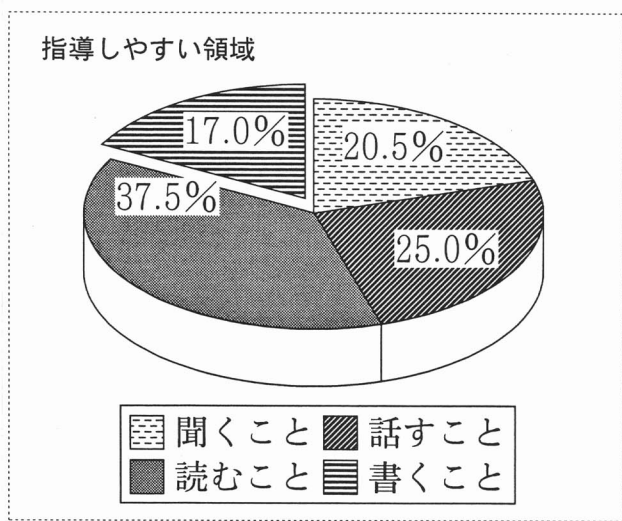
- 1 中学校における「書くこと」の指導の現状をつかむ。
- 2 「書くこと」の指導の最近の流れを書籍や文献等を通して分析し、中学校に適した指導法をさぐる。
- 3 検証授業を通して考案した指導法の効果を検証する。

という3つの柱を立て、生徒の書く力を育てる指導の在り方を探っていくものである。

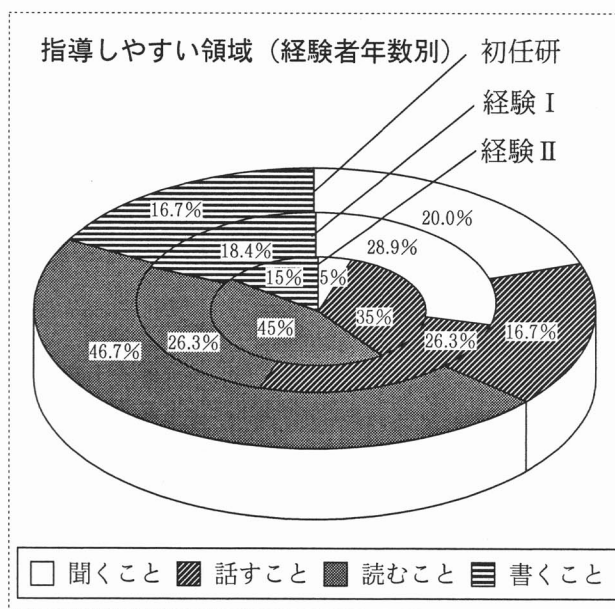
III 研究の内容

1 「書くこと」の指導の現状

次のグラフは、平成8年度の基本研修の受講生^{注1}を対象に行った、日常の授業における「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域の指導に関するアンケートの抜粋である。

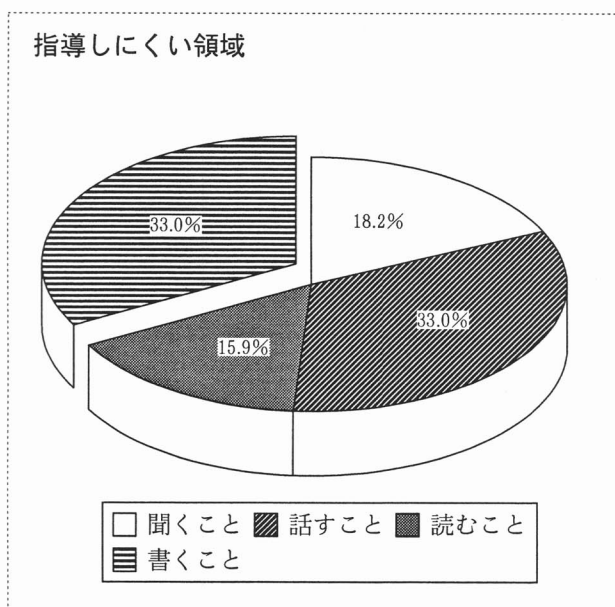


注1 本センターにおける初任者研修講座30名、経験者研修I 38名、経験者研修II 20名の計88名を対象に行った。



指導しやすい領域として、「読むこと」を挙げている教師が多い。これは「教科書の音読」が「読むこと」の指導として定着しており、中学校の授業で広く行われているためであろうと思われる。^{注2}

反対に、指導しにくい領域として、「話すこと」と「書くこと」、すなわち、表現の領域を挙げている。「書くこと」の指導が最も指導しにくいとする教師は全体の約3分の1であった。



注2 回答者の93.2%が、「音読」をふだんの授業で「よく行っている指導」、6.8%が「時々している指導」と答えている。